

49 関節リウマチに対するヒト化抗ヒト IL-6 レセプターモノクローナル抗体加療中に肝障害を来した1例

菅野 智之・石川 達・阿部 聡司
井上 良介・渡邊 雄介・岩永 明人
関 慶一・本間 照・吉田 俊明
上村 朝輝・山崎美穂子*・坂井 勇仁*
田崎 和之*・鈴木 靖*・石原 法子**
西倉 健**

済生会新潟第二病院消化器内科
同 腎膠原病内科*
同 病理診断科**

50 先天性胆道拡張症にPBCを合併した1例

斎藤 勇輝・大関 康志・品川 陽子
上野 亜矢・藤原 真一・小林 由夏
杉谷 想一・飯利 孝雄・野本 実*

立川総合病院消化器センター内科
新潟大学医歯学総合病院第三内科*

【はじめに】今回先天性胆道拡張症に原発性胆汁性肝硬変を合併した稀な症例を経験したので報告する。

症例は44歳，女性。2006年4月先天性胆道拡張症（戸谷分類Ia型）と診断され2008年10月先天性胆道拡張症に対し手術を施行された。2012年，2013年に健診で肝機能異常を指摘され4年ぶりに撮像したCTで肝硬変・腹水貯留・脾腫の増悪・脾門部に拡張した門脈側副路の発達を認めた。血液検査からPBCを疑い2014年に肝生検を施行した。門脈域は線維性に拡大し，Bridging necrosisを認め，胆管消失・門脈狭窄・増生を認めた。肝実質での小円形細胞浸潤を伴った類上皮肉芽腫の形成を認めた。CNSDCは認めなかったが，PBCに矛盾しない組織所見であった。胆道再建に伴う胆管炎や胆汁うっ滞を示唆する所見はなかった。

【結論】肝組織では胆道拡張症術後の胆汁うっ滞による肝硬変を示唆する所見は認めず，先天性胆道拡張症及びその手術とPBCとの因果関係は明らかにはならなかった。

【結論】肝組織では胆道拡張症術後の胆汁うっ滞による肝硬変を示唆する所見は認めず，先天性胆道拡張症及びその手術とPBCとの因果関係は明らかにはならなかった。

II. 特別講演

『B型肝炎と発がんの病態学』

福井大学大学院医学系研究科
内科学(2)領域

教授 中本 安成